

2023年 6月30日

バックナンバーは <http://karadakan.jp> でお読みいただけます。

〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1  
鶴岡タウンキャンパス 致道ライブラリー内  
TEL 0235-29-0806  
FAX 0235-29-0807

番外後編

院長リレー  
インタビュー  
第六回

ともに考えよう

地域医療みらい図

自分のために 未来のために

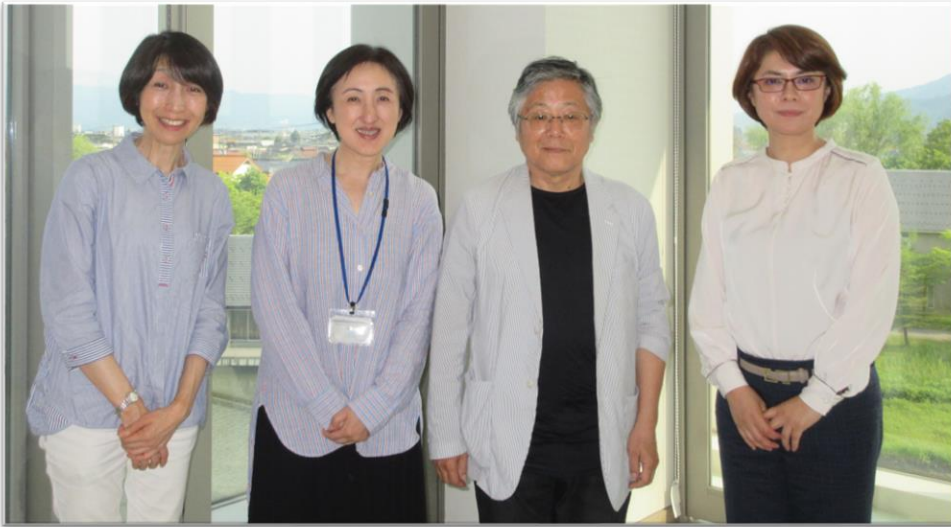


からだ館通信 60号から始

めた「ともに考えよう地域医療みらい図 院長リレーインタビュー」では、私たちが暮らす庄内地域の医療課題や目指す姿をそれぞれの院長からうかがってきました。

- ※第一回 日本海総合病院 島貴隆夫院長
- 第二回 鶴岡協立病院 堀内隆三院長
- 第三回 鶴岡市立庄内病院 鈴木聡院長
- 第四回 医療法人なごみ会三井病院 三井卓弥院長
- 第五回 山形県立こころの医療センター 神田秀人院長
- 第六回 山形県庄内保健所 芦野吉和所長

前回（65号）は、番外篇として山形県庄内保健所 芦野吉和所長より、在宅医療に携さわるきつかけや、在宅看取りを推進された思いをおききました。今回は引き続き後編です。



聞き手は左手より秋山美紀<sup>1)</sup>、齊藤彩<sup>1)</sup>、瀬尾利加子<sup>2)</sup>。1)慶應義塾大学からだ館 2) (株) 瀬尾医療連携事務所

## 在宅医療における地域連携 訪問看護の重要性

「庄内は特に看護師も少ない状況です。どのようにお考えですか。」

（蘆野）在宅医療を進める上では地域連携が必要不可欠です。その上で最も重要な役割を果たすのは訪問看護師と考えています。訪問看護師の役割は、病状の観察、医師の指示に基づく治療の実施、入浴介助、生活ケア等療養上の世話、医師や患者家族との橋渡しなど多岐にわたります。そのため有能な訪問看護師が対応することで患者、家族、医師も不安なく生活を送れます。訪問看護師が病院・診療所と連携をして、いきいきと楽しく働くことが非常に重要です。

（蘆野）本当に深刻な状況です。しかし私は、魅力的な医療を作っていけば人は集まると考えています。魅力的な医療を一緒にやりたいなという人を惹き付けることを考えて、みんなで話し合う必要があります。どういう医療をやりたいのか私が前に従事していた十和田市の病院では、緩和ケアを中心に据えて看護師を集めました。すると、緩和ケアをしたい、と本当に思いのある優秀な看護師が集まってきました。そのメンバーがその後、病院の中心になって本当にいい病院になっている。

また、時々病院の看護師も外の世界、在宅あるいは施設での看護を経験することは非常に勉強になります。このような交流事業はすでに内陸地方など、様々な地域で取り組んでいます。この体制ができるのと、患者ご家族の細かいニーズを拾うことができるようになります。地域をあげて看護師の力を高めることは非常に重要です。

病院の質を決めるのは医者じゃなくて看護なんですよ。看護師がしっかりしている、いい病院ができあがる。だから、地域で看護師の思いを実現できる医療体制を作ると、看護師が集まってくると思うんですね。

次ページに続く

1 目指す在宅医療の在り方を教えてください。

(蘆野) 基本的に、従来の医療とは全く違う医療で、新たな概念です。それは、いわゆる社会保障審議会で、「治す医療」から、「治し、支える医療」のキャッチフレーズで言い表しています。生活や生きがいを支える医療というものです。従来は医療が前面に立っていて、最終的にみんな医療の中で死んでいく。それをみんなが当たり前だと思っています。ところが、「治し、支える医療」は最後まで、どこにしようと思ってる人。支えるためにそばにスツという形。黒子の存在としてあるものです。

1 在宅医療において一番大事なことはなんですか。

(蘆野) 基本的に大事なものは、



山形県庄内保健所 所長 蘆野吉和さん 「医療は最終的に、その人の生きがいを叶え支えるためにある、私はそんな在宅医療をこの地域に作りたくて考えています。」

(蘆野) 「身体的な健康」ではなくて、「その人らしい人生や生活が継続できること」です。それを支えるために医療があるのだという考え方が在宅医療の考え方です。特に今我々が強調しているのは「生きがい」です。

1 「生きがい」とはどのようなものですか。

(蘆野) 例えば、具体的に何かおいしいものを食べたい。その気持ちが生きがいにつながります。死が近い場面でも、最後に食べたいものを食べること。医療の視点では、その場合はいわゆる誤嚥性肺炎を起こす危険があるから食べさせちゃいけないと考える。そうすると、それを防ぐために絶食になる。そうじゃなく。おいしく食べて、たとえ喉に詰まっても、もう本当においしいと思えばそれでいいんじゃないかっていう考え方。小さな生きがい、誰かに会いたい、こういうところに行きたい、という願望は誰にでもあるわけです。それが叶えられると、認知機能が低下している状況の人でも、これで良かった、ありがとう、と感じてくれる。お昼を食べてニコッと在宅医療の現場でよく聞く話です。

医療は最終的に、その人の生きがいを叶え支えるためにある、私はそんな在宅医療をこの地域に作りたくて考えています。

1 地域の皆さんへメッセージをお願いします。

(蘆野) 人は必ず死を迎えます。当たり前ですが、ちゃんと意識しておく。そして、自分の人生を生きていく。最期はこれで良かったと思える社会を一緒に作っていきましょう。

今は、死が日常から切り離され、家族を中心とする看取りが忘れ去られてしまっています。その結果、命の尊厳を実感する機会が無くなり、家族や地域とのつながりも希薄になっていったように思います。私は今求められているのは、誰にでも訪れる死、看取りを地域社会に戻すことだと考えています。団塊の世代が後期高齢者になる2025年。いずれ入院ペットを確保することも困難になってくるのは明らかです。市民も従来と意識を変えなければならぬ。どう最期を迎えたいか、後悔しないよう一人ひとりが考え、向き合っていかなければなりません。(了)



あとがき

今回のインビューがきっかけで健康大学「どうする？ 人生の終い方、私らしくイメージしてみませんか」が始まりました。市民のみならず、大いに語り、学び実践していきます。ありがとうございます。次回もどうぞお楽しみに。

### 聞き手のプロフィール

齊藤 彩 からだ館スタッフ、社会福祉士。 院長インタビューを通じて地域医療体制の情報を発信し、ここで暮らす皆で医療を考えていきたいと考えている。

瀬尾 利加子 (株)瀬尾医療連携事務所代表、鶴岡市地域医療を考える委員会委員長。2015年まで鶴岡市内の病院に勤務後、高齢社会から起こる医療課題の解決策に取り組むため起業。みどりまち文庫を運営。

秋山 美紀 からだ館リーダー、慶應義塾大学教授 鶴岡市地域医療を考える市民委員会コーディネーター 中央社会保険医療協議会公益委員等。約15年にわたり庄内地域の医療をウォッチする傍ら、国の医療政策にも関わる。

院長リレーインタビュー記事はからだ館ホームページよりご覧いただけます。



## 「どうする？人生の終い方、 私らしくイメージしてみませんか。」

突然ですが皆さんにお尋ねします。あなたは「人生」について普段から考えたり、家族や大事な人と話し合ったりする機会を作ろうとしていますか？

考えたくはないですが、病気だけではなく体の衰えは誰しもいつかやってきます。そんな時に困ったり、悩んだりする人を少しでも減らしたい。そんな思いもあり、からだ館では「人生の終い方」を考える勉強会を実施しています。

第1回（開催：2023年2月27日）から毎月開催し、参加者の今とこれからの人生の終い方の準備につなげるための情報や、専門職、相談窓口を知っていただく機会となっています。

どうしてもネガティブになりがちな話題ですが、参加者の皆さんと前向きに楽しく学習ができるよう工夫しています。自分も考えてみたいなという方からのお申込みお待ちしております。

### テーマ 地域資源・サービス・制度を学ぼう

第1回 2023/2/23	自分を可視化する・在宅医療を考える 庄内保健所 所長 蘆野吉和氏	
第2回 2023/3/6	訪問看護の現場から現状や課題 いのちの華 訪問看護ステーション 所長 大滝ひとみ氏	
第3回 2023/3/13	自分らしい最期を選べるように考えよう	
第4回 2023/4/21	地域包括支援センターから 前編 地域包括支援センターふじしま 社会福祉士 坂東真由美氏	
第5回 2023/5/19	地域包括支援センターから 後編 地域包括支援センターふじしま 社会福祉士 坂東真由美氏	
第6回 2023/6/16	訪問看護サービスについて 基礎編 訪問看護ステーションきずな 所長 上野由佳氏	
第7回 2023/7/21	臨床宗教師の活動について（仮） 米沢市立病院緩和ケアチーム 臨床宗教師 松原寺 副住職 妻鳥紘明氏	
第8回 2023/8/18	訪問看護サービスについて 在宅療養事例編 訪問看護ステーションきずな 所長 上野由佳氏	
第9回 2023/9/15	人生の終い方・これからどんな学びが必要か ～みんなで意見を出し合おう～ からだ館スタッフと参加者	



- ・ 各回の開催時間：10:00～11:30
- ・ 会 場：鶴岡タウンキャンパス 3階 セミナー室SA
- ・ 問い合わせ先：からだ館 担当（長谷川・瀬尾・斎藤）

## 絵手紙教室

2020年に患者サロンの参加者のリクエストで始まった絵手紙教室。毎月1回、がんの経験者が講師となり、開催しています。

当初、参加者は患者サロンの参加者が中心でしたが、今では、口コミで様々な方が参加してくれるようになりました。見学もOKですよ！参加希望の方はご連絡ください。お待ちしております。



開催日: 毎月第1火曜日

時間: 10:00~11:00

会場: つるおかタウンキャンパス セミナー室SA

会費: 500円

※ 要申し込み からだ館29-0806まで

## からだ館情報ステーション 引っ越しました\(^o^)/



からだ館情報ステーションは、2023年6月末に従来の場所から隣の部屋に引っ越しました。(以前は一時休憩室として利用されていた部屋です)



以前よりも広い空間になったので、今後は個別にお話をお聞きしたり、少人数の会が開催できるようになりました。見晴らしがよいのもうれしいポイントです。

引っ越しに関して多くの皆さんより、ご協力いただきありがとうございました。今後もからだ館情報ステーションをご活用ください。どうぞよろしくお願いいたします。

## 編集後記



夏といえば何を連想しますか？ 花火、ひまわり、クワガタ、プール、かき氷、スイカ、メロン、何と言ってもただちゃ豆。中でもお盆の頃の豆の味は最高！そして夏野菜たちも、猛暑を乗り切るエネルギーを与えてくれますね。年々、夏の訪れも早くなり、暑さが厳しくなっている気がします。地元の旬の食材で、この夏も元気に乗り切りましょう！ (M.A)



## にこにこ倶楽部



がんを経験された方・そのご家族が、  
経験・想いを分かち合うサロン

自分の経験、家族としての思い、日々の暮らし、皆さん今の気持ちや思いを素直に話しています。想いを出すことができるのは、そこに聞いてくれる人がいるから。皆さんがお互いに思いやり合える大切な場になっています。



参加者の声

・最近、妻と妹をがんで亡くした。夜になると淋しい思いが強くなる。前向きになりたいと思うが今は難しい。皆さんと話したくて参加しました。来てよかった。

・4回目の腸閉塞で入院した。食べて、寝て、排泄してという当たり前のことの大事さをあらためて感じた。ここに來られるのも幸せと感じています。

開催日 毎月第一金曜日

時間: 10:00~11:00

会場: 鶴岡タウンキャンパス3階

会費: お一人100円

※ 要申し込み からだ館まで

からだ館の15周年記念誌を制作したご縁で、この4月から仲間入りすることになりました。地域医療・福祉分野については門外漢からの参加ではありますが、一人一人がよりよく生きるために何ができるのか、私自身が学びながら尽力できればと思います。よろしくお願いいたします。



長谷川結さん

新メンバーが仲間入り。  
どうぞよろしく  
お願いいたします。

## 新スタッフの紹介



瀬尾利加子さん

皆様と一緒にからだ館で行われている数多くの活動から学ばせていただき、スタッフとして、「健康につながる行動を起こす学びの場」のお役に立ちたいと思います。